実例　二次障害を克服したむっ君（小学4年生）

もくじ

〇小学校時代に判明した発達障害
〇受け入れ体制がどこにもない！
〇二次障害に気づいていなかった
〇二次障害はひどくなり不登校へと繋がっていく
〇子どもを守るのは親しかいない！
〇親が安心すると子どもも安心する
〇担任の先生が実践した合理的配慮
〇これが僕の見えてる世界！

小学校時代に判明した発達障害

実例

現在小学校６年生（１２歳）のむっ君の話

むっ君は幼稚園の頃は活発な子という印象でした。

言うことを全く聞かない、かんしゃくを起こすと止まらない等、育てにくさを感じる事もありましたが、何の問題もない子と思っていました。

小学校へ入学し、ひらがながの学習が終わった頃に担任の先生から「文字を覚えるのが遅い。一度ご相談に行かれては」と言われ、初めて発達専門医に相談しました。この時は年齢的に書けないのか、発達障害によるものなのか判別がつかない、という事でした。

２年生の夏休み明けに改めて検査をし、読み書き障害（ディスレクシア）であると診断がつきました。それとほぼ同時期に別機関からＡＤＨＤであるとの診断も受けました。

受け入れ体制がどこにもない！

診断後は、療育を受けたり学校に対応をお願いすれば一件落着だと思っていました。

小学校から何か提案していただけると思い、大阪医科大学の診断結果を持って学校に相談に行くと、「お母さんはどうされたいですか？」という質問を返されました。誰に何を助けてもらえたらよいのか分からず途方に暮れました。

３年生になり「もっときれいに字を書こう。忘れ物はゼロで」という指導がきつくなり、先生に言われるまま頑張り続けたむっ君は、３学期についに「学校に行きたくない」と言い始めました。

二次障害に気づいていなかった

むっ君は２年生の診断後、支援級に入りたいという希望を出していましたが、支援級は一定のＩＱ以下でないと認められず、通級は空きが無いので入れないと言われました。障がいがあるにも関わらず支援をうけることができないまま、むっ君は通常学級で、他の子どもたちと一緒の学習内容や宿題をこなすことを強いられました。

同時に、私（保護者）も先生から忘れ物や宿題について家庭でもしっかり管理するよう求められ、むっ君に対してますます厳しく接していました。その結果、毎日口げんかを繰り返し、むっ君は暴れる、物を壊す、壁に頭を打ち付ける自傷行為など、かなり荒れた状況となっていました。

当時は「二次障害」という言葉は知っていましたが、この状況が「二次障害」であるとは気づいていませんでした。

二次障害はひどくなり
不登校へと繋がっていく

担任や教頭先生にむっ君の障がいの説明を幾度となく説明をしましたが、担任からの答えはいつも同じ。「彼はがんばればできる子です。」配慮も支援も得られないまま、何の為に診断を受けたのか分からず、二次障害が悪化していく日々でした。

むっ君は友達が大好きで、学校には行きたかったのですが、担任との折り合いが悪くクラスに入ることが難しくなりました。学校側に相談すると保健室登校を提案されました。何の手立ても講じないまま、何故一方的にむっ君が保健室登校なのか？怒りと失望の気持ちでいっぱいになり、もう学校に行かなくていいと本人と家族で決めました。こうして二次障害がひどくなり、不登校へと繋がってしまいました。

子どもを守るのは親しかいない！

二次障害と不登校に陥ったむっ君のことを放課後等デイサービスの先生に相談しました。このとき先生から「子どもを守れるのは親しかいないんだよ！」と叱られました。自分の子どもを守れなかった事実を目の前に突き付けられ、目が覚める思いでした。

放課後等デイサービスの先生から、「学校に対して、おかしいことはおかしいとはっきり伝えることが大切！！」「むっ君本人の気持ちを聞いて、保護者と一緒に解決していくことが重要！」

「これらを実行することで、親子の信頼関係が生まれ、保護者が自分の気持ちを大切に思ってくれていることでむっ君の自己肯定感が高くなります。

今ならマイナスをプラスに変えていくことが出来ます。最後まで必ずむっ君とご家族を守りますから安心してください！」こう言ってもらい、怖くて踏み出せなかった一歩を踏み出すことが出来ました。先生の何を置いても息子の事を大事に思ってくれてる事をひしひしと感じて、親の私が守らないと！と強く思うきっかけになりました。

親が安心すると子どもも安心する

改めて、学校側に現状を訴えた事で通級に移り、支援計画を細かく立ててもらいました。

5年生から6年生になり、学校からの連絡が密になり、保護者に安心感が生まれました。その安心感が保護者の精神的な安定をもたらし、むっ君への支援や声掛けが穏やかになりました。

それに伴い、むっ君の二次障害であった暴言暴力や自傷行為も無くなりました。

現在の担任の先生の対応策です。（具体的な合理的配慮）

①宿題はほぼなし。家ではやらないスタイル

②学校でむっ君が良かった点をたくさん教えてくれる。むっ君にも伝えてくれている。

③何か相談を持ちかけると報告の後に「僕に任せてください。大丈夫ですよ」と声掛けがある。

④むっ君が忘れ物をすると、「僕も子どもの時出来てなかったし、大丈夫ですよ」と言って安心させてくれる。

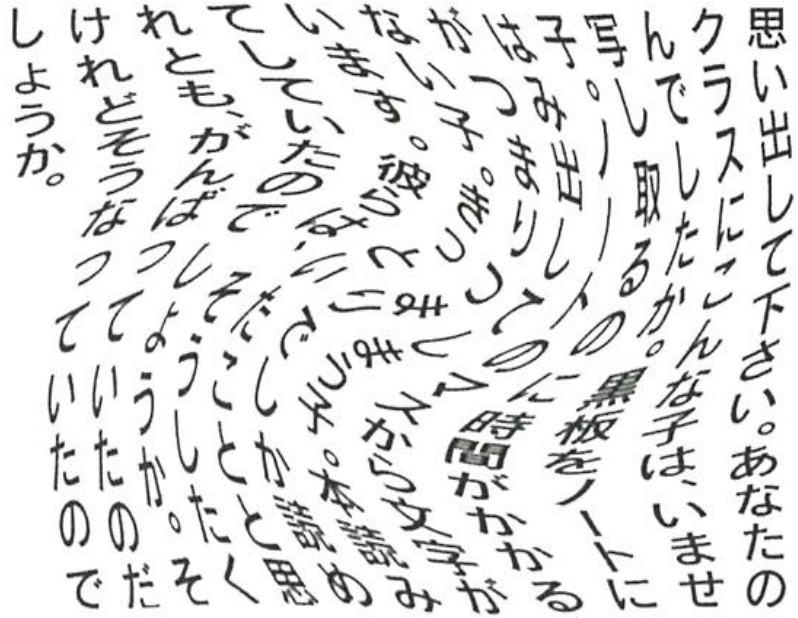
→ユニバーサルスクールと同じ対応をしてくれていると感じました。

まだまだ学習への課題がありますが、タブレットの使用を許可され、テストはルビ対応、口頭質問回答等、様々な具体的な合理的配慮を受けて、少しずつ通常学級でも楽しく安定した学校生活が送れるようになっています。

これが僕の見えてる世界！　1

読み書き障害（ディスレクシア）の子が見ている文章と文字　その1

図表 2　読み問題い、書き問題いの実例

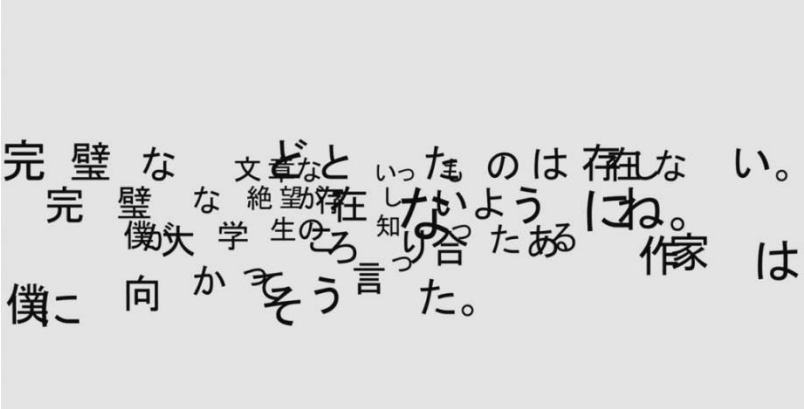


読み書き障害は先天的なので、みんなも同じように見えていると思い込んでいる。
そのため理解してもらうことが難しく、支援につながる頃には、自尊心が深く傷ついた状態になっていることが多い。
早期の支援が重要である。
（合理的配慮）

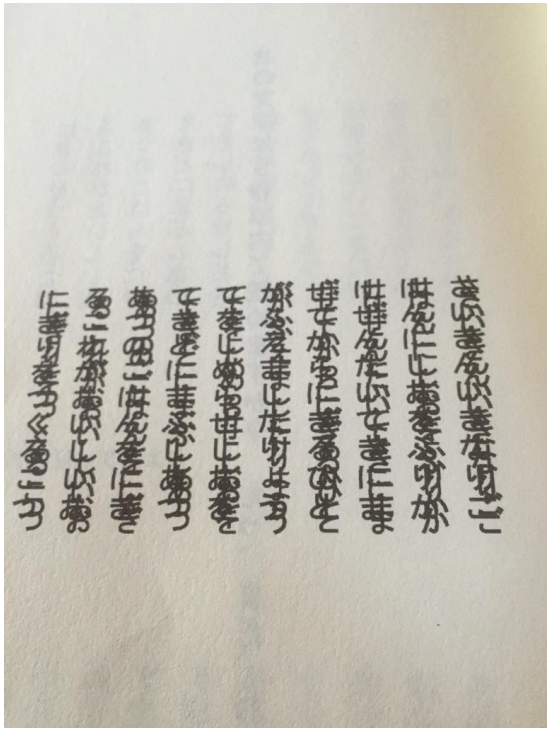
音読や書き取りがたどたどしい。
「怠けている」等と思われる。

これが僕の見えてる世界！　2

読み書き障害（ディスレクシア）の子が見ている文章と文字　その2



出典：「NPO法人エッジ　ディスレクシアの人が活きる社会に」



これが僕の見えてる世界！　3

読み書き障害（ディスレクシア）の子の色々な見え方

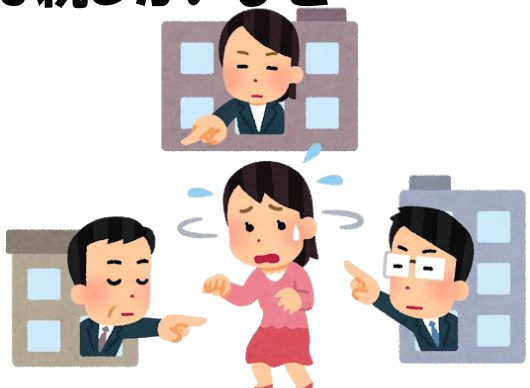
公益財団法人　日本障害者リハビリテーション協会 情報センター

皆さん、相談をして、たらい回しになった経験はありませんか？

行政や保健センターに相談に行きましょう、と書いてあることが多く私も始めは小学校の教育相談に申し込み相談しました。

しかし、子どもの困りごとや家での問題点を延々と親である私が語り、「お母さん、色々大変でしたね。そうですか～」と深く傾聴はしてくれるのですが、何の解決策も提示してくれませんでした。

皆さん、こんな経験はないでしょうか？たらい回しをしない解決できる行政であって欲しいですね。

たらい回しになってしまっても、あきらめず行動し続ける事が大事です。ずっと頑張り続けるのはとても大変なので、休憩しながらでも継続して行動して行きましょう。子どもを守れるのは親しかいません！

実例　二次障害を克服したむっ君の母　著